

第1部門 私たちがはじめた、一人ひとりをたいせつにするケアの取り組みで変わった施設ケア(初級編)
神戸学院大学 11号館2階 112A講義室

時 間	部門 No.	種別	施設名	都道府県
		発表テーマ		
		発表の概要		
12:00～12:25	1-1	特養(従来型)	ぬく森	愛知県
		和み喫茶OPEN ～利用者様・職員の心の変化～		
		他者との交流を深める場所として「和み喫茶」を始めた。利用者の新たな一面の発見と、1人ひとりに深くかかわる時間を持つことによって見えてきた職員の意識の変化を発表します。		
12:25～12:50	1-2	特養(新型)	ジョイフル多治見	岐阜県
		安楽な姿勢 ～ポジショニングを考える～		
		重度化する介護施設において、臥床時間の長い利用者様に対する安楽な姿勢の保持が質の高い睡眠や拘縮予防につながると思え、臥床時やリクライニング上でのポジショニングについて検討することにした。		
12:50～13:15	1-3	老健	聖ルカ苑	熊本県
		「動き出しは当事者から」～本人主体のケアに向けて～		
		認知症があり、指示が入りづらいY氏(97才女性)に対して安全面にのみ配慮した職員主体の介護となりY氏の意思に気づきにくかった。介助を動画撮影し検証し動き出しの現れに気づきその意味を考え介助者主体から利用者主体を意識した介助を行った結果、利用者、職員に変化が見られたため報告する。		
13:15～13:40	1-4	グループホーム	グループホームくらら	愛知県
		共同生活だからといってみんな仲良くなくていいよ		
		1ユニット全員の仲が良いとは限りません。病気や障がい以外に個性や性格があります。今回、ひとつのユニットで9名の個性や性格がぶつからず、笑顔で生活のできる場を提供する取り組みを行ったことを報告します。		
13:40～14:05	1-5	特養(新型)	ソエルいちのまち	岩手県
		「動き出しは当事者から」ちょっと待つことから始まる一人ひとりを大切にするケア		
		介護者が思うような介護がうまくいかないとき、「利用者視点から始まる介護」という介護方法を学びました。介護の様子を映像に撮り、介護の視点を変えるだけで入居者様との信頼関係が増す、新しい介護方法をご紹介します。		
14:05～14:20	休 憩			
14:20～14:45	1-6	グループホーム	しんわ	熊本県
		「動き出しは当事者から」～動画撮影から始まったこと～		
		自分たちが行ってきた「自立支援」とは本当に入居者様にとって本当の「自立支援」だったのか、ということを改めて見直す機会がありました。新たな気づきを通して改善に向け取り組みを行ったことについて事例報告させていただきます。		
14:45～15:10	1-7	多機能型集合住宅	L-CUB三春	福島県
		その人らしいライフスタイルの提供について		
		エルキューブは老若男女、心身ともに健康でありたいと願う方々が世代を超えて集い、支え合うために誕生したコミュニティです。その中で入居者様の事例を挙げ、発表いたします。		
15:10～15:35	1-8	特養(新型)	あんり	大阪府
		チームケアを深め、住み良い環境づくり		
		認知症の周辺症状が見られるA様に対して、落ち着いて過ごしていただくための環境整備やアプローチの方法をチームで協議しながら実践しました。		
15:35～16:00	1-9	グループホーム	せいわながすの里	熊本県
		「動き出しは当事者から」実践報告(立ち上がり～歩行動作)		
		その人らしさとは何か、本人の動き出しを大切に、97才の事例の立ち上がり動作を通して「目線」「頭の位置」「動く(介助)方向」から、動きだしやすい環境を考えた介護への取り組みを報告する。		
16:00～16:25	1-10	地域密着型特養	倶楽荘	愛知県
		職員相手にキレまくったNさんの本当の想いとは？		
		老健からユニット型特養に入居したNさん。従来型での生活感を引きずり、職員、入居者とのトラブルが続発。ユニットケアの問題点に悩みながら互いに歩んだ3年間。		
16:25～16:40	休 憩			
16:40～17:05	1-11	特養(新型)	ビハーラ十条	京都府
		安心して食事を召し上がっていただくために		
		不安定な姿勢、飲み込みにくい嚥下状態、それやすい集中力に合わせた食事介助を課題に、チームとして取り組んでいる経過とふり返り。		
17:05～17:30	1-12	地域密着型特養	ビハーラまどか	熊本県
		動き出しは当事者から ～はじめの一步～		
		大堀先生の「動き出しは当事者から」の研修を受け、私たちがしていたことを改めて振り返り、これからを考え、一番に利用者のためにいま何ができるか？を職員全員で考えています。		
17:30～17:55	1-13	特養(従来型)	さわらび	長野県
		尊厳あるケアの実現に向けて		
		利用者様にとって尊厳ある暮らしとは何かを振り返ることで基本的なケアの見直しにつながった取り組みと、多職種の連携により改善されつつある取り組みの2事例についての報告。		

第1部門 私たちがはじめた、一人ひとりをたいせつにするケアの取り組みで変わった施設ケア(初級編)
神戸学院大学 11号館2階 112C講義室

時 間	部門 No.	種別	施設名	都道府県
		発表テーマ		
		発表の概要		
12:00～12:25	1-14	特養(新型)	愛知たいようの杜	愛知県
		姿勢を見直そう！ ～車椅子から椅子での食事を目指して～		
		車椅子に座って食事をしている利用者様。車椅子は椅子ではなく移動手段です。車椅子での食事から、椅子に座って、快適でおいしくたのしく食事をしていただく取り組みを発表します。		
12:25～12:50	1-15	地域密着型特養	新和苑あがんなっせ	熊本県
		「動き出しは当事者から」を通して		
		長期入院で自分をおさえられていた方が入居され関わり方での変化の経過を報告します。		
12:50～13:15	1-16	特養(新型)	グレイスフル熱田	愛知県
		利用者様にあったケアを行うために！		
		2人介助で排泄ケアを行っている利用者様の中には、本人様のタイミングで誘導ができていない現状から、本人様のタイミングでケアができるようアクティブリビングを取り入れながら取り組みを行った。		
13:15～13:40	1-17	障害者支援施設	星空の里	鹿児島県
		動き出しは当事者から ～こんな体に誰がしたか～		
		利用者主体ということがどういうことなのか？ひとつの事例を通してご利用者の可能性と援助者としての在り方を改めて問い直すことができた。		
13:40～14:05	1-18	特養(従来型)	ひかりの園	熊本県
		「ここでの生活は3分の2は、まだまだ不満ですね」～U様との関わりを通して～		
		「ここでの生活は3分の2は、まだまだ不満ですね」の言葉に、U様のためと言葉で言いながらも、それが押し付けになってしまい、苦しませてしまっていたのではということ気付かされ、もう一度…。		
14:05～14:20	休 憩			
14:20～14:45	1-19	特養(従来型)	福光園アネックス	岩手県
		家族がいない事に不安を感じている入居者様の不安を和らげる為に		
		入居から5年が経過しようとしていますが、毎日のように家族を探されています。ご本人様が安心して生活できるように職員がいろいろと考えて工夫した取り組みを発表します。		
14:45～15:10	1-20	特養(新型)	ユニットケア慶和園	北海道
		「明るく楽しい生活の場へ」めいすいユニットの取り組み		
		H26,12 特養の増床で新しい生活がスタート。落ち着いて生活していただきたい思いから、情報収集・カンファレンス・薬の見直しに併せて外出企画を継続。怒り易かったユニットご利用者の変化について事例発表します。		
15:10～15:35	1-21	老健	リハリゾート青葉	神奈川県
		在宅復帰を目指して ～ケアスタッフの役割を考える～		
		他部署も含めたチームケアを行い、在宅復帰を目指すにあたって、チームの中でのケアスタッフの役割を考え、それに対して実践したことについて発表する。		
15:35～16:00	1-22	地域密着型特養	花いずみ	岩手県
		自分の居場所を探して		
		他の施設から入居された奥様との居場所づくりやお年寄り1人ひとりが居室だけではない場所や居室の模様替えをすることで、入居者が落ち着けるところを発見できるまでを報告します。		
16:00～16:25	1-23	地域密着型特養	ビハーラまどか	熊本県
		見逃していた私たち		
		「動き出しはご本人様から」という基本的な観点から私たち職員がご本人様へのケアを見直し気づいたこと、学んだこと、取り組んできたこと。		

第2部門 一人ひとりへの3大介護のあり方とその工夫(基礎編)
神戸学院大学 11号館4階 114A講義室

時 間	部門 No.	種別	施設名	都道府県
		発表テーマ		
		発表の概要		
		特養(従来型)	きのこ荘	岡山県
12:00～12:25	2-1	「なんか食べようやあ」～その一言から気付かされた「食」の大切さ～		
		寝たきりの生活から本人の意志で動く生活への変化。		
12:25～12:50	2-2	特養(新型)	ビハーラ十条	京都府
		口から食べる喜び トイレで排泄する喜び 喜びある暮らし		
		Aさんは入所時、胃ろうからの摂取(昼食のみ経口摂取)で排泄もベッドでのおむつ交換だった。Aさんの意欲と職員の支援により、現在は3食経口摂取し、排泄も日中はトイレでできるようになった。		
12:50～13:15	2-3	地域密着型特養	和里(にこり)香芝Ⅱ	奈良県
		ビフィズス菌を用いた排便状況の改善		
		ビフィズス菌BB536を用いて、排便状況の改善を目指す。対象入居者にビフィズス菌BB536(一日一包)を8週間飲んでいただき、排便日と食事量から飲む前と比較して排便状況観察をおこなった。		
13:15～13:40	2-4	特養(従来型)	一本松荘	熊本県
		『排泄大改革』第2弾		
		排泄ケアへの取り組みを継続していく中で、スタッフ自身がご利用者様の気持ちになってもう一度個別ケアを見つめ直し、誰のためのケアなのかを考え、1人1人が安心できるように取り組んだ事について発表します。		
13:40～14:05	2-5	特養(従来型)	博愛の園	大阪府
		Nさんの三大介護に焦点をあて考える		
		本人の状態はもちろん、環境の変化からこんなにも三大介護の取り組み方も変わるのか、そのあり方を考え取り組みしてきたことを発表させていただきます。		

第3部門 “食”の工夫を目指す、その人らしい豊かな暮らし
神戸学院大学 11号館3階 113C講義室

時 間	部門 No.	種別	施設名	都道府県
		発表テーマ		
		発表の概要		
		特養(新型)	ナーシングケア加納	岐阜県
12:00～12:25	3-1	経口摂取が限界な方への食事支援 ～多職種協働での取り組み～		
		高齢者にとって全身機能や筋力の低下に伴い、嚥下困難に陥るケースが少なくない。しかし、最後まで食事を安全に摂取していただき、胃ろう造設後も経口摂取をあきらめず多職種協働で食事摂取に対する取り組みを報告する。		
12:25～12:50	3-2	ケアハウス	ありすの杜きのこ南麻布	東京都
		お年寄りのために私にできることとは？		
		私のユニットは10人のお年寄りがいらっしゃいます。その1人ひとりが好きな食べもの、または季節を感じることができる食事をお年寄りと一緒につくることで、もっとこうした方がいいとお互いが学んだりしたことを発表します。なかなか手作りなどは難しいと思われませんが、この嬉しい表情をみると頑張ろうと思えます。		
12:50～13:15	3-3	特養(従来型)	博愛の園	大阪府
		お年寄りから食事の大切さを学んだ三年間		
		パート、嘱託を経て、厨房と事務所兼務の管理栄養士となり三年目を迎えました。生活の中でお年寄りに楽しみが増えてほしいといろいろ実践しましたが、食事の大切さをお年寄りに学ぶ毎日です。そんな実践内容を発表します。		
13:15～13:40	3-4	ユニット型 地域密着型特養	素心苑	青森県
		『ちゃんとしたものが食いたい』この一言からはじまった暮らし		
		食えることが大好き。でも食べたいものが食べられない「食の難民」が集まった素心苑。食べたいものを食べて頂きたい。この想いを大切にユニット調理や外食、食形態等を工夫し、入居者と共に暮らす日々を重ねてきました。		
13:40～14:05	3-5	特養(新型)	和里(にこり)	奈良県
		ユニット型特別養護老人ホームにおける盛り付け方法の実態調査		
		暮らしにおいての食事には、作る・盛り付ける・食べる・片付けるといった一連の流れがあり、その中で私たちは五感で暮らしを感じている。盛り付けに関して課題が見受けられた為、本調査を実施した。		

第4部門 これまでの暮らしの継続をたいせつにした生活環境づくり
神戸学院大学 11号館3階 113B講義室

時 間	部門 No.	種別	施設名	都道府県
		発表テーマ		
		発表の概要		
12:00～12:25	4-1	特養(新型)	エバーグリーン	岐阜県
		選ばれる施設(行きたくなるショートステイづくり)		
		市内での通所を含めた介護施設の増設に伴いショート利用競争が激化していく中で、いかに選ばれる施設になるか利用率アップに向けての取り組み。		
12:25～12:50	4-2	認知症対応型共同生活介護	グループホームきらら	愛知県
		ノーマライゼーションと健康づくり		
		当事業所のご利用者は長年農業に従事してきた方が多く、老後の楽しみとして自宅で家庭菜園などをして生活することを望んでいた。その環境に近づけながら自然に健康づくりできるよう工夫したことを紹介する。		
12:50～13:15	4-3	特養(従来型)	なごみ	大阪府
		寝る前にお風呂に入る ～入居者さん・職員の変化について～		
		“風呂沸いたか？”就寝前のある方の一言から始まりました。寝る前に入浴する。当たり前のことを行ってみて、本人さん・職員はどう感じたのか、変化はあったのか……？		
13:15～13:40	4-4	特養(新型)	第2ジョイフル江南	愛知県
		余暇を充実した生活に		
		3年前に検討したレク内容のままであったため、みんなで再検討を行っていき、レクを通して生活の質の向上「生きがい」、職員にとっての「やりがい」となり、信頼関係の構築を目指しました。		
13:40～14:05	4-5	老健	リハビリゾート青葉	神奈川県
		短期入所療養介護への新たな取り組み		
		老健における短期入所の目的はふたつある。ひとつには家族のレスパイトであり、ふたつには在宅生活を支えるための生活リハビリである。限りある期間の中でいかに満足いくケアの提供ができるかを実践したので報告する。		
14:05～14:20	休 憩			
14:20～14:45	4-6	小規模多機能型 居宅介護	陽だまりの郷	北海道
		復活！！食事(調理)を通して認知症低下予防&お袋の味		
		当事業所でご利用者様と行っている調理をご利用者様が率先して行い、ご利用者様同士でメニューを見ながら下ごしらえから調理までができるように継続して支援を行う。また、調理をすることにより、脳が活性化し認知機能の低下を妨げることをスケールをとりながら検証した過程を発表する。		
14:45～15:10	4-7	ケアハウス	福光園ケアハウス老楽園	岩手県
		私の「おもい」願いを「きいて」下さい ～心の声がききたくて～		
		自分のおもいを表現できる方と、難しくなられた方。正反対の2名の担当を持つ中で、どちらのおもいも叶えたい。心に耳を傾けた支援を目指しながら、葛藤している日々を発表させていただきます。		
15:10～15:35	4-8	老健	老健あんき	愛知県
		地域とのつながりのある生活		
		自宅で転倒し、入院・入所により地域とのつながりが途切れてしまったA様。退所後のひとり暮らしの再開に向け、地域との関わりを創っていった取り組みについて報告します。		
15:35～16:00	4-9	特養(新型)	グレイスフル熱田	愛知県
		退屈とは言わせない！ ～自分で楽しい生活を作ろう～		
		特養に入居された利用者様の中には自発的に動くことなく、ベッドに横になる時間が増え、自主性の低下が認められた方もみえた。利用者様にとっての「自分らしい生活とは何か？」を改めて考え、取り組んできました。		
16:00～16:25	4-10	地域密着型特養	大宮フロイデドルフ	茨城県
		施設全体でM様の願いを叶える		
		自立した生活をしていたM様は転倒後身体の痛みにより生活全般に介助が必要になったことで消極的な発言が多くなった。そんな中、時折こぼす「また自分でごはんが食いたいな」という願いを叶えるための取り組みを報告します。		
16:25～16:40	休 憩			
16:40～17:05	4-11	特養(新型)	せとうち	岡山県
		腹臥位とポジショニングについて		
		・ポジショニング:寝たきりの方の拘縮を防ぎ、ベッド上での楽な体勢での過ごし方。 ・腹臥位:うつ伏せになり、体の緊張をほぐすためにマッサージを行い、誤嚥を防ぎ、排便を自然に出せるようにする。		
17:05～17:30	4-12	デイサービス	デイサービスセンターかおる園	北海道
		高齢者サロン 一人ひとりの役割 未来へ向けて		
		平成26年10月より新十津川町から業務委託を受け、事業開始する。事業開始時「サロン=自主性」に任せていたが、ただ何となく参加している状況が続いていた。今年度より一人ひとりの役割を明確にした、特色あるサロン事業を目指した実践を発表する。		
17:30～17:55	4-13	特養(従来型)	山科苑	京都府
		『その人時間』に合わせていく ～好きな事を、好きな時に、好きな場所で～		
		開設20年目という節目の年から、業務、施設時間、生活環境を大きく見直した。その中で好きな事を、好きな時に、好きな場所で。その人の時間に合わせていく取り組みをどのように行ってきたかについて発表する。		

第4部門 これまでの暮らしの継続をたいせつにした生活環境づくり
神戸学院大学 11号館3階 113C講義室

時 間	部門 No.	種別	施設名	都道府県
		発表テーマ		
		発表の概要		
14:20～14:45	4-14	有料老人ホーム	ケアレジデンス水戸元吉田館	茨城県
		ストレスのない明日へ ～E様の事例報告～		
		お酒好きなご利用者様で、家族も「飲みたいのだから飲ませてあげたい」と言われている。福祉施設として、飲酒はすすめられるものではないが、お酒とどのように付き合うのがいいのか？メリット・デメリットを探った事例である。		
14:45～15:10	4-15	医療施設	三豊市立西香川病院	香川県
		これからの時代 ～Aさんとの出会いで気付いたこと～		
		H24年12月入院してきた1人の女性。彼女は元職業が僧侶、多数海外旅行へ行くなど、当院に入院している患者と違った生活歴がある。その関わりのなかで考えた、次世代のケアの在り方・考えたことについて報告する。		
15:10～15:35	4-16	特養(従来型)	ひかりの園	熊本県
		本音を聞ける場所へ		
		納得のいかないまま入居となり、自宅へ帰りたいたいという思いは常に持たれているが…気の合う方同士の集う場として“蓮華ステーション”の始動により、お年寄りに変化が…主体的な居場所とは。		
15:35～16:00	4-17	老健	洛和ヴィラサラサ	東京都
		自信をつけて自宅に帰りたい -本人・家族が安心して暮らせるために-		
		「自宅で暮らしたい」、「身の回りのことは自分でしたい」という思いがあるT氏。その反面、大きな不安を感じている。身体面の維持・向上だけでなく、精神面の不安要素の抽出、及び改善へ向けた取り組みについて報告する。		
16:00～16:25	4-18	特養(従来型)	博愛の園	大阪府
		安心できる普通の暮らしへの実現に向けて		
		現在、施設では「関係と環境の見直し」をテーマに取り組んでいる。その中でお年寄りが今まで暮らしてきた生活環境をどのようにユニットで取り組んだのかの発表である。		

第5部門 介護者家族との協働で実現する、その人らしい暮らし方
神戸学院大学 11号館4階 114A講義室

時 間	部門 No.	種別	施設名	都道府県
		発表テーマ		
		発表の概要		
		特養(新型)	こすもす倶楽部	兵庫県
16:40～17:05	5-1	「家に帰りたい」を叶えたい		
		自立度が高く、自宅での生活を強く希望している入所者に対し、家族の協力を得ながら思いに応えるためユニット職員同行の元の一泊や併設事業所のヘルパーを利用しての半日の一時帰宅を実施している。		
17:05～17:30	5-2	デイサービス	デイサービスセンター寿光荘	岩手県
		夫婦の絆・家族の絆 ～想いに寄り添って～		
		現在、デイサービスをご夫婦で利用されている方やお年寄りとそのご家族との関わりの中で、それぞれの絆を大切にし、それぞれの想いに寄り添っていくために、私たちにできることは何か。想いに気づき、支えになっていける存在になりたい。		
17:30～17:55	5-3	老健	洛和ヴィライリ奥斯	京都府
		家族交流 促進の取り組み		
		年2回家族交流会を開催しているが、当初は家族間の会話が少なく職員が橋渡ししている状況だった。開催も5回目になり、家族間の交流が盛んになり、意見や要望もいただけるようになった。交流促進の取り組みを報告する。		

第5部門 介護者家族との協働で実現する、その人らしい暮らし方
神戸学院大学 11号館4階 114C講義室

時 間	部門 No.	種別	施設名	都道府県
		発表テーマ		
		発表の概要		
		特養(新型)	フラワーホーム	鹿児島県
16:40～17:05	5-4	本人の思いをかなえる為に ～思い出の地 大浦へ～		
		入所時は胃ろうの方でしたが、施設で生活する中で食事を食べるようになり、食事を取ることで元気も出て、自分の思いも言えるようになり、生まれ育った場所へと外出した内容の発表。		
17:05～17:30	5-5	医療施設	三豊市立西香川病院	香川県
		おうちへ帰ろう ～Aさんと奥さんの4ヶ月半～		
		療養病棟へ5年6か月入院していたAさん、いろんなきっかけがあり、自宅へ退院することができた。「退院後も変わらぬ日常を」とAさん、奥さんの自宅での生活支援について報告。		
17:30～17:55	5-6	特養(従来型)	かおる園	北海道
		逆デイサービスを活用した、その方らしい生活を目指す支援		
		かおる園の基本理念にある「その方らしい生活」の実現のために、民家を使った逆デイサービスを活用し、自宅に近い環境で過ごしていただき、ご家族の理解を得て自宅への外泊を目標とした実践。		

第6部門 認知症の方とのコミュニケーションの工夫
神戸学院大学 11号館4階 114B講義室

時 間	部門 No.	種別	施設名	都道府県
		発表テーマ		
		発表の概要		
		特養(新型)	もくせい	茨城県
12:00～12:25	6-1	認知症ケア ～アロマの香りで安心した生活を～		
		安心した生活を送っていただくために「アロマ」を使用し、嗅覚からの刺激を取り入れた認知症ケアへの取り組み。		
12:25～12:50	6-2	特養(新型)	清洲の里	愛知県
		「ほっといて」その本心を探る ～心に寄り添う関係づくり～		
		軽度の認知症の症状があり、介助に対する拒否や他者との関わりを避ける方に対して、ご本人の要望や嗜好などを探り、さまざまな取組をとおして、ご本人の気持ちを知りより良い関係を築く。		
12:50～13:15	6-3	特養(新型)	ぬく森 第二	愛知県
		BPSDを読み解く ～Aさんの落ち着く居場所づくり～		
		認知症の方に対してユニットケアでできる日常生活での見守りとケアに関する工夫と取り組み。		
13:15～13:40	6-4	有料老人ホーム	ケアレジデンス水戸本館	茨城県
		認知症を患っている入居者に対するチームケア		
		脳血管性認知症を患っている入居者に対して平成26年5月より入居者のニーズ、ケアプランに沿って多職種の協力も得ながら取り組みをした事例である。		
13:40～14:05	6-5	特養(新型)	ぼー愛	兵庫県
		その方を理解してみる		
		神戸市認知症介護実践者研修を受講し、その方の周辺症状を分析し、職員一人ひとりが対応していくことを発表いたします。		
14:05～14:20		休 憩		
14:20～14:45	6-6	特養(従来型)	おおみや苑	京都府
		ぬくもりユニットの輪 ～みんなが穏やかに暮らすには～		
		個性豊かなご利用者のケアに悪戦苦闘した日々のことを紹介します。		
14:45～15:10	6-7	特養(新型)	加古川さくら園	兵庫県
		訴えの多い認知症の方へのアロマセラピー効果		
		身体的な訴えの多い認知症の方へアロマを通して精神面での安定を図り、下肢浮腫の軽減に取り組む中で学んだこと。		
15:10～15:35	6-8	特養(新型)	こすもす倶楽部	兵庫県
		DVDを使用した嚥下体操について		
		職員が出演するDVD映像を作成し、利用者様に体操のレクリエーションやコミュニケーションの機会を提供していることについて。		
15:35～16:00	6-9	医療施設	三豊市立西香川病院	香川県
		ユニット活動の再考 ～男性ならではの追求する～		
		院内で唯一、男性だけのユニットである「ちーむ、いいとも」が男性ユニットとしての特色を考え、利用者様の声を聞き、男性ならではの活動を行うことで普段見ることの出来ない表情を見ることができた。		
16:00～16:25	6-10	特養(新型)	ビハーラ十条	京都府
		A様がいつまでも安心・安全に暮らせる為に		
		・お客様との関わりについて(チームで口腔ケア)歯みがきを促す。 ・夜間、目が覚めて起きるとき不穏時の対応(関わり方について)。		

第7部門 ターミナルケアから学んだこと、考えたこと、伝えたいこと
神戸学院大学 11号館4階 114C講義室

時 間	部門 No.	種別	施設名	都道府県
		発表テーマ		
		発表の概要		
12:00～12:25	7-1	特養(新型)	さつまの里	千葉県
		他者援助を通した自己成長		
		ターミナルケア、施設内でのご葬儀、ご家族を含めた関わり……それらを通して感じたこと、介護者側の人生観の変化について。		
12:25～12:50	7-2	特養(従来型)	北勝園	茨城県
		看取り介護導入から現在に至るまで		
		平成26年2月から看取り介護を導入し、ケアの方法や職員の捉え方、考え方が徐々に変化してきた。いくつかの事例をもとに導入から現在に至るまでの経過を発表したい。		
12:50～13:15	7-3	特養(従来型)	おおみや苑	京都府
		穏やかな最期のために私達の出来る事		
		看取りケアを始めて9年目。振り返って、改めて気づいたことを発表します。		
13:15～13:40	7-4	特養(新型)	野桑の里	兵庫県
		看取りケアを通して深まる絆		
		看とりケアをさせていただくなかで、色々な学びや喜びを教えてもらいました。でもその先にまだ喜びが待っていました。看とりケア～えんの会までの取り組みを報告します。		
13:40～14:05	7-5	特養(新型)	ビハーラ十条	京都府
		私とT様の2年4ヶ月		
		T様は入所10年目のH27,10月にターミナルケアで看取りをさせていただいたお客様で、T様と過ごした2年4ヶ月から看取りとなられるまでに私が学んだこと、感じたこと。		
14:05～14:20	休 憩			
14:20～14:45	7-6	地域密着型特養	結いの郷小牧	愛知県
		初めての看取り ～経験がないからこそ感じた気持ち～		
		お年寄りの日々の暮らしを支えることに携わる中で初めて人を看取る。本人の願いや家族の想いをひとつでも形にしたいきもちと、人が最期を迎える場に立ち会う不安。その中で感じたことを伝えたい。		
14:45～15:10	7-7	特養(従来型)	松楽苑	島根県
		穏やかな最期を迎えられたあの空間		
		ご家族と共にその人らしい最期を迎えられた感動を報告する。		
15:10～15:35	7-8	認知症対応型 共同生活介護	グループホームうらら	愛知県
		ターミナルケアの一症例を通して学んだこと		
		事業所としてターミナルケアと今後はどのように向き合っていくか一症例を通して浮き彫りになった課題を紹介。		
15:35～16:00	7-9	地域密着型特養	ジロール麴町	東京都
		後悔から次へ…		
		突然の別れになってしまった方がおり、その方はターミナルケアにかぎらず日々の接し方について身を持って職員へ教えてくださった。そして次にターミナルを迎えた方に対してどう向き合ったか紹介する。		
16:00～16:25	7-10	地域密着型特養	ひかりの園	熊本県
		あたりまえの暮らし～104歳のM様が教えてくださった社会とのつながり～		
		M様が私たちに言葉で、後ろ姿で教えてくださった人との関わり。社会性、生きるとのこと。そして、M様から次世代を担う私たちに託されたもの。		

第8部門 職員同士のチームケアや多職種との連携
神戸学院大学 11号館3階 113A講義室

時 間	部門 No.	種別	施設名	都道府県
		発表テーマ		
		発表の概要		
		特養(従来型)	なごみ	大阪府
12:00～12:25	8-1	本来のご夫婦の暮らしを考える ～離れて暮らす二人をツナグ～		
		大好き同士だった二人。しかし、認知症が原因で特養・GHで別々に暮らすことに……。二人の辛さを職員が受け止め、昔のように一緒に過ごして頂けるためには、を考えた取り組みをお伝えします。		
		特養(従来型)	第2ジョイフル江南	愛知県
12:25～12:50	8-2	「起きる」ってそんなに大切？ ～利用者様の変化から感じたこと～		
		入居情報により、寝て過ごされている時間が多い方を同様に受け入れている現状がありました。徐々に反応が悪くなるのを見て、刺激のある生活を過ごしていただくにはどうすれば良いか検討し、取り組んだ経過を報告します。		
		特養(従来型)	御前山フロイデガルテン	茨城県
12:50～13:15	8-3	自分らしく生きたい ～私らしく元気に生きる為のチームケア～		
		生活意欲の低下したI様と食事・水分の摂取量が安定しないS様に自分らしい生活を継続していただく為に、多職種と連携してアプローチすることでその人らしい生活を取り戻してもらうために取り組んだ内容について報告する。		
		医療施設	三豊市立西香川病院	香川県
13:15～13:40	8-4	匠が作り出した 待ちたいと思える時間 ～小改造！？劇的ビフォーアフター～		
		以前は、忙しい業務の中で、患者さんの動き出しを待つことが出来なかった。しかし、待つことで患者さんが変化していくことに気づく。そこに行きつくまでのスタッフの想いやチームでの取り組みについて報告する。		
		特養(従来型)	第三光が丘ハウス	福井県
13:40～14:05	8-5	みんなでつくるユニットケア、その方にとって安心できる生活		
		1人1人の利用者の方がその方らしく安心した生活ができるように環境や関わりについて、ユニット職員や様々な職員で話し合い、取り組みを重ねています。そのチームケアについてお伝えします。		
		休 憩		
14:05～14:20	8-6	特養(新型)	宝塚ちどり	兵庫県
		ユニットリーダーから見たチームケアマネジメントの実践		
		ユニット運営を行う中でチームが円滑に運営できるように、多職種と連携を取り、ご利用者の生活をサポートしています。その中で業務の共有の難しさやチームマネジメントの重要性について項目を分けて発表します。		
14:45～15:10	8-7	老健	中部台ケアセンター	岐阜県
		在宅復帰に向けた目標設定と多職種・ユニットでの取り組み		
		在宅復帰に向けてインテーク時に家族と共に食事やADLについての課題を確認し、入所後に多職種・ユニットスタッフ・家族で目標を設定し取り組んできた事例について。		
15:10～15:35	8-8	特養(新型)	神の園	京都府
		パート×仲間づくり＝働き続けたい		
		一人ひとりのパートさんの笑顔を輝かせるために始めたパート会。		
15:35～16:00	8-9	通所リハビリテーション	コスモス通所リハビリテーション	熊本県
		成功事例を通して多職種が連携し協働することの大切さ		
		家事動作の自立を目標に取り組んだ結果、家事動作が自立した成功事例を基にICFシートを活用し、多職種の取り組みを視覚的に整理した。その結果、多職種の専門性が明確化し、連携協働することの大切さを再確認した。		
16:00～16:25	8-10	特養(新型)	福光園	岩手県
		すぐあきらめない とことん考え とことん工夫すること ～多職種との良好な関係が成功へ導いた大きな鍵～		
		現場スタッフの「何とかしたい…」の声から立ち上げた「さわやか委員会」。多職種との職域の垣根を越えた連携をつくり、「できるところから1つずつ変えていく」という行動を実践した事例。		
16:25～16:40	8-11	休 憩		
		特養(従来型)	御前山フロイデガルテン	茨城県
		ADL向上への取り組み ～在宅復帰を目指して～		
16:40～17:05	8-12	寝たきりの状態で入所されたAさんのADL向上を目指して多職種連携でリハビリを提供し、介助方法を変更しながら取り組んだ事例とご利用者様の生活意欲向上を目指し、生活リハビリを提供した事例を発表する。		
		特養(新型)	HOME TOWN コスモス	福井県
		「ミトンを外そう！」拘束ゼロを目指したチームケアの取り組み		
17:05～17:30	8-12	胃ろうチューブの自己抜去を防ぐため、24時間ミトンを装着していたY氏。スタッフの意識改革から始まった「拘束ゼロ」を目指した取り組みについて報告します。		

第9部門 施設の人材確保、職場の環境づくりについて
神戸学院大学 11号館4階 114A講義室

時 間	部門 No.	種別	施設名	都道府県
		発表テーマ		
		発表の概要		
		老健	リハビリゾート青葉	神奈川県
14:20～14:45	9-1	介護キャリア段位制度における内部評価の取り組み		
		介護キャリア段位制度は介護人材の育成・確保を図ることを目的に厚生労働省の介護職員資質向上促進事業に基づいて実施される制度です。この制度を活用し、職場内の教育システムを改善してその取組を報告します。		
14:45～15:10	9-2	地域密着型特養	いやさか苑	兵庫県
		介護用リフトを活用する新しい介護 ～特別養護老人ホームいやさか苑の取り組みを通して～		
		いやさか苑では介護用リフトを浴室(個浴、特浴)で活用している。開設後、利用者のわき腹にできた内出血をみた主治医に虐待を疑われた。その後、床走行リフトを導入して、利用者、職員共に安全な介護環境を目指している。その取組の現状と課題を発表する。		
15:10～15:35	9-3	地域密着型特養	大宮フロイデドルフ	茨城県
		介護人材を無駄にしない ～入職前からの計画的な人材育成を図る～		
		年々減少している介護新卒者を計画的に教育する仕組みを法人全体で検討した。入職前からの実践教育で仕事の不安軽減を図り、配属先の指導負担軽減を考えた。少ない介護人材の即戦力化に向けた教育実践を報告する。		
15:35～16:00	9-4	特養(新型)	ジョイフル千種	愛知県
		一歩先の未来へ ～道具使用は出来てきた。その先に待っているのは…～		
		当法人ではノーリフティングポリシーに則り、利用者様の自立支援と利用者様と介護者双方の負担軽減を目指している。職員の福祉用具の適正使用に対する意識を高め、皆が安心して生活できる施設にしていく。		
16:00～16:25	9-5	特養(新型)	和里(にこり)	奈良県
		福利厚生制度における職員の意識改革		
		平成26年度、選択型福利厚生制度(カフェテリアプラン)を導入。本年度よりカフェテリアプランの自由度を拡大、職員参加型「サプライズプレゼント」「にこりマンスリーギフト」を実施。職員への影響を検証する。		

第10部門 スタッフの育成、工夫したこと、苦労したこと
神戸学院大学 11号館5階 115A講義室

時 間	部門 No.	種別	施設名	都道府県
		発表テーマ		
		発表の概要		
		特養(新型)	グランデパール	岡山県
12:00～12:25	10-1	看取りと向き合う ～不安から安心へ～		
		施設の職員が看取りについて「分からない」「不安だ」という声があった。職員の不安を取り除くために行ったことを報告する。		
		特養(新型)	グランデパール	岡山県
12:25～12:50	10-2	誰でもできるエンゼルケア		
		最期をその方らしい姿で見送れるように死後の経過に合わせたスキンケアやメイクの方法、着付けなどの技術を誰がやっても同じようにできるように研修した。		
		特養(従来型)	洛和ヴィラ桃山	京都府
12:50～13:15	10-3	経年別シミュレーション研修を通して		
		これまでの教育方法と効果の分析を踏まえ、経年別、役割別の現状を評価し、それぞれに応じた力量を得るため、シミュレーション研修に取り組んだ。その効果を検証し、今作の教育体系の再構築について考察する。		
		老健	リハビリゾート青葉ユニット館	神奈川県
13:15～13:40	10-4	ユニットケアフロアのリーダーの育成		
		ユニットケアにおいて、リーダーとはそのユニットにおける「社長」であり、職員としての質の高さ、ニーズに応える柔軟な対応が求められ、その育成評価について発表する。		
		特定施設入居者生活介護	ひびき。	福岡県
13:40～14:05	10-5	「動き出しは当事者から」～理念の実践から～		
		高齢者雇用が多い施設の中で理念の大切さに気づき学習をすすめる。VTRにて理念の具体化を図り今、「動き出しは当事者から」で出来ることを求めている。		
		休 憩		
14:05～14:20				
14:20～14:45	10-6	特養(新型)	神の園	京都府
		もし明日全ユニットリーダーが死んだら… ～そこから生まれたリーダー塾～		
		リーダー主宰の「リーダー塾」を受けて、リーダーとは何か？リーダーとして必要なことや可能性を学び感じたこと。		
14:45～15:10	10-7	老健	リハビリゾート青葉	神奈川県
		施設内教育の新たな展開 ～ユニットケアの活性化を図るために～		
		人材不足に拍車がかかる中、ユニット内の要望は多様化し、それに耐え得る人材育成は最重要課題である。実践力を高める施設内教育、特にリーダーシップを養うことを意図として教育計画の転換を行ったので報告する。		

特別部門 思いのままに実践発表(ショート枠10分)
神戸学院大学 11号館5階 115A講義室

時 間	部門 No.	種別	施設名	都道府県
		発表テーマ		
		発表の概要		
15:10～15:25	S-1	特養(従来型)	かおる園	北海道
		地域で暮らし続けるために ～災害対策に必要なこと～		
		開設されてから地域住民とはお祭り等の楽しいことでしか交流を図っていなかった。自然災害が他人事ではなくなった今、近隣住民との合同の災害訓練をおし、いざというときに助け合える関係を作るためには何が必要なのか、学んだことを発表する。		
15:25～15:40	S-2	小規模多機能型 居宅介護	よんなっせ	熊本県
		「動き出しは当事者から」実践からの気づき		
		ソファからの立ち上がりが環境を整え、職員側の「これはできないだろう」という思い込みを無くし、対応することで、利用者の動きだしにつなげることができた。「本当に必要な介助とは何か」が実践事例を通し理解できた。		
15:40～15:55	S-3	特養(新型)	斯楽荘	愛知県
		ユニット内の人間関係を良好にしたい		
		ユニット内でのコミュニティの重要性。その理解と構築。		
15:55～16:10	S-4	グループホーム	ありすの杜きのこ南麻布	東京都
		Tさんとの関わり方		
		ユニットで動きまわりいろんなものをさわったり壊したりする、スタッフにとって少し困る利用者様との正しい関わり方、声掛けについて考えてみる。		
16:10～16:25	S-5	特養(新型)	グレイスフル上前津	愛知県
		事故防止に努めて ～危険予測を高めて、安心、安全な生活を心がけて～		
		職員同士はもちろんのこと、利用者様、ご家族とも情報共有を行うことで信頼関係をより築く。		
16:25～16:40	休 憩			
16:40～16:55	S-6	通所リハビリテーション	こころ上牧	奈良県
		I HAVE CHANGED		
		入職して7年6ヶ月。正職で入職しフロア異動、パートへの降格その遍歴を通し、仲間や上司との関係性、介護という仕事に対する意識の変化、自分自身を見つめ今改めて介護職のスタートラインにたったと考えられるようになった。		
16:55～17:10	S-7	デイサービス	温心館	熊本県
		理念のはじまりは情報の共有から		
		職員主体の介助から利用者の残存機能を活かし、動き出しに合わせて職員の援助を最小限にした利用者主体の起居動作への取り組み。		
17:10～17:25	S-8	ショートステイ	グレイスフル上前津	愛知県
		退所時の荷物忘れをゼロにする		
		利用者様のケアプランを把握したうえで最良のケアの提供。細やかなニーズを把握。		
17:25～17:40	S-9	地域密着型特養	西城園	熊本県
		理念に沿ったケアとは…		
		開設して3年目、これまでではただただ仕事に慣れ軌道に乗せていくことで精一杯で、「理念」ということを考えて行えていなかった。今回少しずつではあるが、「理念」というものを考え、取り組んでいる過程を発表する。		

ポスター展示・説明：自由テーマ
神戸学院大学 11号館1階 総合受付前

時 間	部門 No.	種別	施設名	都道府県
		発表テーマ		
		発表の概要		
		特養(新型)	洛和ヴィラ大山崎	京都府
12:00～17:55	P-1	地域ボランティアと施設との関わり ～これからの地域で施設を確立していくために～		
		開設12年がすぎ、地域ボランティアと施設との関わりも変化し、「利用者様の楽しみ」「地域に密着し開けた施設」につな げていくためにボランティアの活動の検証と意識、思いを調査した結果を報告する。		
12:00～17:55	P-2	特養 (従来型・地域密着型)	五色・サルビアホール	兵庫県
		高齢者が楽しく取り組むことが出来るオリジナル体操の考案・制作		
		体操メニューを増やすことで体操時間のマンネリ防止、余暇活動の充実につなげる。		